

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、元浜圏域） 第2回会議 議事録

|      |   |
|------|---|
| 開催日時 | 令和5年11月28日（火）10時00分から11時30分まで   |
| 参加者  | 委員：8人 事務局：5人 その他：8人（高齢者福祉課：1人、中区長寿保険課：2人、地域包括支援センター元浜：3人、曳馬協働センター コミュニティ担当：1人）  |
| 場所   | アイミティ浜松 大会議室  |
| 内容   | <p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 地域包括支援センター元浜圏域協議体会長</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 前回会議の振り返り<br/>         前は6月19日に開催。内容としては、下記の通り。<br/>         ・おでかけマップのふりかえり<br/>         ・浜松市地域福祉計画アンケート調査結果について<br/>         ・グループワーク ～高齢者の暮らしにおける困りごとについて～</p> <p>グループワークでは、曳馬地区では「子ども食堂を取り組むのはどうか」「子どもだけではなく、大人でも食に困っている人がいる」という意見があり、北地区でも「高齢者に向けた集まりの場をつくりたい」という意見があがった。今回は、それぞれの地域で、共通してあがった「居場所」の課題について検討していく。</p> <p>(2) 地域の居場所づくりについて</p> <p>①子ども食堂等の事例紹介<br/>         浜松市社会福祉協議会 東区CSW 伊藤 翼より<br/>         ・東区の特徴ある子ども食堂の取り組みについて紹介。<br/>         ・子ども食堂は「貧困対策」と「地域の交流拠点」の二面性がある。<br/>         貧困対策としてのメリットとしては、手作りで温かい食事が無料・低額で食べられること、孤食の防止、地域で子ども・子育て家庭の見守りができること。地域交流拠点としてのメリットとしては、子ども同士、親同士、地域住民同士が繋がれること、地域で暮らす人の新たな接点をつくれること、運営者・ボランティア等のやりがいに繋がることがあげられる。</p> <p>②浜松市内外におけるさまざまな「居場所」<br/>         生活支援コーディネーターより市内外の居場所づくりの事例を紹介。</p> <p>(3) 浜松市の高齢者の状況について<br/>         世帯区分別の高齢者人口について説明した。</p> <p>(4) グループワーク<br/>         曳馬地区、北地区に分かれて、<br/>         ・地区内の居場所の共有<br/>         ・地区でどんな居場所が必要か<br/>         ・集いの場でどんなことをやりたいか（場所は？内容は？）<br/>         について話し合い、各地区で出た意見を全体共有した。</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>4. 連絡事項</p> <p>5. 閉会 地域包括支援センター元浜圏域協議体副会長</p>  |
| 今後の見通し等 | <p>今回は、両地区共通であった「居場所」の課題をテーマに協議を行った。子ども食堂の取り組みをヒントにした高齢者の居場所づくりについての情報提供、高齢者の世帯区分別人口についても説明を行った上で話し合いを行った。前年度に作成したおでかけマップを活用しながら、閉じこもりがちな高齢者にも関心をもってもらえるような居場所づくりを検討していきたい。</p> |